

この度は当院でのクラスター発生に関連して、様々なご心配をお掛けしております。
当院の新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）に対する診療方針、当院でのクラスター発生から現在に至るまでをご説明いたします。

当院は、高知市大膳町において76年にわたり、高知市西部地域の地域医療を担ってまいりました。これからも地域の患者さんのために変わらず医療を継続していくことが最大の使命と考えています。

今年の3月に当院職員が新型コロナに罹患しました。以降、毎週最低2回「新型コロナ対策会議」を行い、日々変わっていく新型コロナの状況や国の方針を正確に把握し院内対策を進めてきました。その中で常に当事者意識を持って議論を尽くし決定した病院方針は『当院は①新型コロナの検査は行うが、②新型コロナの入院診療は行わない』ことで、行政にも、その旨、報告しておりました。
この新型コロナに対峙するには、県内の医療機関がその特徴や機能を踏まえ、役割分担をする必要があります。当院は、急性期から回復期、慢性期、そして在宅迄幅広く地域医療を担う病院です。このコロナ禍の中、その役割を全うするために下した決定です。

令和2年12月15日、様々なコロナ対策を行ってきたにも関わらず、当院精神科入院患者さん13名のクラスターが発生しました。その意味では、“痛恨の極み”です。高知市保健所に、新型コロナ入院対応施設への転院をお願いしましたが、県下のコロナ病床が非常に逼迫していること、新型コロナ患者が全員軽症であることより、当院での入院継続を要請され、今日に至っています。その要請に基づき、当該精神科病棟内に、急遽、新型コロナの診療・看護体制を立ち上げました。また、新型コロナ診療の人員を厚くするため、精神科デイケアの休止と緩和ケア病棟（ポピー病棟）の閉鎖を行うことで、職員の再配置を実施し、当該病棟への応援要員を捻出しているところです。しかし、常に感染リスクがある病棟での業務は想像以上のストレスであり、現場のスタッフは、精神科病棟特有の制約の中で、昼夜、全力で患者さんの治療に当たっています。

今回のクラスターが起こったのは、細木病院こころのセンター（建物名称は、北館）という内科、外科、整形外科といった一般診療を行う建物とは別の独立した建物の中の、さらに中棟4・5階の閉鎖された病棟内で発生したものです。感染発生が限定された環境内であり、外部への感染拡大のリスクは低いと判断され、精神科の外来と一般科の外来及び入院診療は、通常通りの運営を許可されています。

12月15日の報道時、高知市保健所の指示により、感染リスクの高い患者さんにPCR検査を行いました。病棟内の全ての患者さんにPCR検査を行ったわけではありません。無症状の患者さんは、症状が出現すればその都度PCR検査を行うという高知市保健所と協議した方針で対応しています。以降、当院からの新規感染者は、すべて同一病棟内の患者さんで、15日時点で感染しており、潜伏期間を置いて症状が出現し、PCR検査陽性が確認されていると推測され、新型コロナが当院内で次々と拡大しているわけではありません。マスメディアでは、連日当院からクラスター患者が発生していると報道されておりますが、当該病棟内での感染に留まっており、新たな感染が拡大しているのではないことを、どうぞご承知下さい。

当院は、今、本来であれば担うはずではなかった新型コロナの入院加療に追われる過酷な状況となっておりますが、これまで以上に新型コロナ感染予防をしっかりと行い、私たちの使命である地域医療は変わらず行います。地域の皆さんにはどうぞ過度の心配はなさらず、当院への受診をご検討ください。何卒、皆様のご理解とご協力を、どうぞ宜しくお願い申し上げます。